

第3回懇談会の主な意見等

【1 第2回懇談会 事例視察】

<共用部分について>

- 桃二小と方南小では、共用部分の考え方が違い、参考になった。オープンスペースについては、共用部分の活用については、教職員のヒアリングを通していく中でどのような教育を目指しているか、具体的なイメージを確認し設計にて検討した方がよい。
- (方南小) ガラス張りの教室は、落ち着かないのではないかと。現在の学校は、外部の人が良く来るので、個人情報観点からも検討した方がよいのではないかと。
- オープンスペースがあるのはよいと思うが、教室の数が足りなくなるなら可変できるスペースを用意したほうが良いのではないかと。

<プール関係>

- プールは低い位置にあった方が防災上よいのではないかと。
- 体育館の上にプールを設置するのは、コストがかかることや構造的にも不合理。
- 熱中症対応の観点からプールには屋根を設置した方がよいのではないかと。
- プールは屋外にあった方が、防災上の観点から雨水を貯めることができることやヤゴの救出など自然環境の一部としても使うことができる。

<設備関係>

- 木の内装が効果的であった。
- 電子黒板等の設備面が進んでいた。

<色彩計画・サイン計画>

- (桃二小) 階段の色分けがよかった。災害時、誘導等に良い。
- どちらもの学校も色彩計画やサイン計画がよく考えられていた

<その他>

- 今後も検討のプロセスを大切にしたい。
- (桃二小) 図書室の読み聞かせスペースが良かった。
- 子どもたちが伸び伸びいられる場所をどのようにつくるかが大きなテーマ。
- (方南小) 階段室や窓の取り方など工夫が見られた。
- 中庭も採光だけでなく、上手な使い方を設計に反映してほしい。
- 教室の可変性を担保できるような設計にしてほしい。

【2 改築基本方針(たたき台)について】

<スローガン>

- 全体のスローガンがあったうえでビジョンを設けたほうが良いのでは？例えば、「川に囲まれた丘の上の学校」などはどうか。
- 「皆でつくる」という言葉を入れてほしい

<ビジョン等>

- ビジョンは児童にもわかる言葉にした方がよいのではないかと。

- たたき台の内容は、今の時代を反映したものである。人口変動（児童の推移）や土地利用の変化などのデータを共有したい。
- ビジョンとして、地域環境の変化を併せて考えることが良いと思う。
- 児童の数の変化に改築学校がどのように対応するかを考えてはどうか。
- 杉二小はロケーションが非常に良い。公園緑化・段差（擁壁）も十分に活かす計画が良い。
- 段差があることが弱点ととらえずに、恵まれた立地環境、歴史的固有性の価値を活かし、杉二小改築を通して可視化することが出来れば、ビジョンの軸になりえる。
- 地歴的な利用も調べ、地域での在り方を反映したほうが良い。
- 児童の居心地の良さ、教員の働く環境も考えた方針が必要。
- 地域をつくる学校等、地域環境との密接な計画が望ましい。
- 地球環境や省エネ、創エネ等の文言をビジョン等にに入れてほしい。
- 持続可能性という視点が必要。
- これから先、授業のやり方も変わってくるのではないか。低学年・高学年で同じづくりの教室でなくてもよいのではないか。
- どのような子どもを育てるのか、学びの場としての機能や環境が重要。
- 外国人も含めた多様な子どもが学ぶことになる。そのような視点も入れる必要がある。
- 施設のシェアの仕方を検討した方がよい。